

第7回 新みやしろ郷土かるた制作委員会 議事録	
日時	平成28年9月6日(火) 18時~20時20分
会場	宮代町役場 204会議室
出席	委員：田中委員長、関根副委員長、岡本、鈴木、青柳、青木、浅倉、松本、石川 特別参加：宮本(かるた読み手：宮子連) 事務局：佐藤室長、田中主査、小林主査 (敬称略・順不同)
欠席	栗本
傍聴	なし

## 1 次第

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 審議
  - ① 読み句の2次選定(前回の続き)
  - ② 新かるた名称の選定方法について
- (4) その他
- (5) 閉会



## 2 議事

- (3) 審議 ①読み句の2次選定(前回の続き)

### 決定事項

■前回会議で未決定だった音も含め、すべての読み句の最終候補作品を選定(以下の表は原作ベース)

1	あ	憧れと 夢がつまった どんぐりピアノ	24	ね	年齢を 越えて集う はらっパーク
2	い	憩いの場 町のシンボル 進修館	25	の	農の道 四季を楽しむ 散歩道
3	う	うたごえに のせておどろう 宮代おんど	26	は	ハクモクレン 白く輝く 町の花
4	え	SLの 汽笛が響く日工大	27	ひ	姫宮と 身代合わせて 宮代町
5	お	おいてけと 池から声する 身代池	28	ふ	ふくよかな 阿弥陀三尊 西光院
6	か	観音像 いくつもの時と 世代越え	29	へ	平安の 美しき姫 宮目姫
7	き	気持ち良い 挨拶とびかう 健康マッ歩	30	ほ	ぼく達の 先祖がいたかな 道仏遺跡
8	く	ぐるるでは 泳いで投げて 走ろうよ	31	ま	学びの場 知識広げる 図書館で
9	け	健康を 願って回る おししさま	32	み	宮代の 歴史がいっぱい 資料館
10	こ	五社神社 年に一度の みかんなげ	33	む	むらさきの あまくておいしい 巨峰の実
11	さ	三駅が 絆をつなぐ 宮代町	34	め	めぐりゆく きせつかんじる あたらしい村
12	し	真蔵院 歴史を語る 仁王像	35	も	百間小 学びの始まり 明治から
13	す	須賀小の みんなを見守る かえでの木	36	や	山崎山 自然を守ろう トラスト運動
14	せ	せんげんじんじゃ じょうぶにそだと ねがいこめ	37	ゆ	ゆめのせて 雲の果てにの ハーモニー
15	そ	そびえたつ いちょうがかがやく 宝生院	38	よ	夜にわく わっしょいかけ声 夏祭
16	た	旅人を 各地へ導く 道しるべ	39	ら	ライトアップ 冬の楽しみ イルミネーション
17	ち	町民の 笑顔さかせる ハナレンジャー	40	り	竜宮城 赤い校舎の 笠原小
18	つ	つくったひとの えがおがあふれる のうさくぶつ	41	る	るり色の カワセミ飛び交う 姫宮落
19	て	天高く 葉をつけ伸びる シイガシの木	42	れ	歴史ある 木造校舎の 東小
20	と	灯ろうが 光かがやく ふるとね川	43	ろ	蠟燭に 感謝を点す(ともし) キャンドルナイト
21	な	中道(なかつみち) いざ鎌倉と 武士通る	44	わ	和戸教会 埼玉初の キリスト教会
22	に	日光と 江戸をつなげる おなり道	45	を	日本語と 英語をつないだ 島村盛助
23	ぬ	沼を掘り上げ ホツケつった 井沢弥惣兵衛	46	ん	楽しいな わくわくどきどき 東武公

## 主な意見・質疑応答等

### ●「ん」 <仮採用「東武動物公園」> →後ほど改めて検討

事務局 優先題材の東武動物公園の作品については、未決定の音のうち「み」音に1作品しか残っていない。一方で、「み」音には他題材の作品も数多く残っている。東武動物公園については、重要な題材であると思われるので、この1作品だけではなく、より多くの候補作品を対象にし、かつ、他の仮採用作品への影響を避けながら選出を行うために、「ん」音で採用することにしてはどうかと考えた。これについて、いかがか。

全 員 ※特に意見なし

事務局 では、東武動物公園は「ん」音で選定することとして、句については後ほど改めて検討いただきたい。

### ●「と」 <仮採用「古利根川」>

事務局 優先題材とした古利根川については、未決定の音には、候補となる作品が残っていない。そのため、古利根川の句を採用する場合は、既に決定した仮採用を変更する必要がある。古利根川の候補作品で最も多いのは、「ふ」音だが、「ふ」音は既に、同じく重要度の高い、西光院の阿弥陀三尊像の作品で決定しており、また西光院の作品は数が少ないため、できれば手戻りは避けたいところ。そこで、他の音でみると、「と」音に、古利根川の候補作品がある。「と」音は、前回、郷土資料館の作品で仮決定しているが、これを見直し、郷土資料館の候補作品が残っている「み」音で再度検討する、という方法を考えた。これについて、いかがか。

委 員 私は宮代町民ではないが、古利根川と宮代町の関係性は、深いものがあるように感じている。

委 員 古利根川は、外せない題材だと思う。古利根川は、宮代が起点になっている川。葛西用水と青毛堀の二つの流れが、ぐるぐるのすぐ北側で合流し、そこから古利根川が始まっている。

事務局 現在、川を題材とした作品で採用されているのは、姫宮落川のみである。

委 員 私は、灯ろうの表現が少し気になる。灯ろう祭は、やはり杉戸町のもの、というイメージがある。灯ろう祭には、宮代町からも来場者が多くある、という実態はあるが。

委 員 古利根川は、私としてもぜひ採用したい題材。

委 員 ここで古利根川を採用すると、郷土資料館の作品が厳しくならないか。

事務局 郷土資料館は、「み」音にも複数の作品があるため、そちらで検討することも可能。

委 員 先を見通して考えると、杉戸町と宮代町の合併ということも考えられるし、そこまでいかずとも、灯ろう祭を、宮代町と杉戸町が一緒になって盛り上げていく、という考え方で採用する方法も良いのでは。

委 員 「と」音の郷土資料館の作品は、「か」音の観音像の作品と、時を越える、というニュアンスが重複する。その点を考えると、「と」音は、古利根川にしても良いのかもしれない。ただ、「さ」音の駅の作品と、「ひ」の町の名称の作品も、宮代町をテーマとしており、「み」音で資料館を採用すると、ここにも宮代町が出てくる。少ししつこいような気もする。ただ、そこにこだわりすぎると決まらないので、「と」音は古利根川を採用で良いのではないか。

全 員 ※特に意見なし

事務局 では、「と」音は古利根川の作品で決定としたい。

●「み」 <仮採用「郷土資料館」>

事務局 「と」音での仮採用作品がなくなった郷土資料館について、「み」音の4つの作品から検討いただきたい。

委員 子供らしい表現という視点で考えると、「宮代の歴史がいっぱい資料館」が、好ましいと感じる。

委員 同じく、この4作品の中では、「宮代の歴史がいっぱい資料館」が最もふさわしい。

全員 ※特に意見なし

事務局 では、「宮代の歴史がいっぱい資料館」を仮採用とする。

●「ほ」 <仮採用「遺跡」>

事務局 続いて、遺跡を題材とした作品について、検討いただきたい。

委員 遺跡については、考えがある。提案だが、「ほ」音の作品「ぼく達の先祖がいたかな道仏遺跡」を、「縄文遺跡」に変更してはどうか。こうすることで、宮代町の遺跡を包括的に詠んだ作品にする、という考え。宮代町の遺跡は、縄文遺跡が主要なものとなっている。

事務局 今のご提案のほかに、本日の資料でも、事務局の提案として、「遺跡あと」という表現を記載している。これも含めて、皆さんにご検討いただきたい。

委員 道仏遺跡の主要な部分を占めるのは、古墳時代。そこを気にしなければ良い、という考え方も、できなくはない。

事務局 「縄文遺跡」と修正することで、道仏遺跡だけの句ではなくなる。そう考えれば、この作品でも可となる。「縄文遺跡」という表現以外で、遺跡の意味合いを含んだ表現があれば、それでも良いかもしれない。

委員 「む」音の遺跡の作品を、「縄文遺跡」という表現に修正することも考えられる。

委員 事務局提案の「遺跡あと」という言い回しは、「跡」という意味合いが重複している。そこをどう考えるか。

委員 遺跡自体が、「跡」という意味を含んでいるので、さらに「あと」という表現は、違和感を覚える。

委員 「ぼく達の先祖」という部分では、私たちの先祖と、縄文人とは、学問的にはつながらないと思われる。ただ、疑問形としている前半は、子供らしい表現で、これはこれで良いと思う。

委員 基本的な部分だが、「ぼく達」という表現は、これで問題ないだろうか。

委員 一般的な表現として、問題ないと思うが。

委員 私も、特に違和感を感じない。

委員 自分も、同感である。

事務局 では、句の最後の部分「道仏遺跡」の部分の表現だけペンディングとして、仮採用としたいが、よろしいか。

全員 異議なし

●「う」 <仮採用「宮代音頭」>

事務局 「う」音は、宮代音頭か桜市の作品が候補となる。

委員 「え」音が、日工大しか選べないので、「う」音は宮代音頭で良いのでは。

事務局 それでは、「う」音は宮代音頭の作品を採用としてよろしいか。

全員 異議なし

●「え」 <仮採用「日本工業大学」>

事務局 「う」音が宮代音頭となったので、ほぼ自動的に、「え」音は日本工業大学となる、ということではよろしいか。

全員 異議なし

●「む」 <仮採用「巨峰」>

事務局 「き」音には、優先題材である巨峰の候補作品がある。これまでの状況を踏まえると、巨峰については、「き」「つ」「む」から選出することとなる。

委員 巨峰については、やはり「む」音の作品が優れていると思う。

委員 宮代町のイメージカラーとつながるので、これが良いと思う。

委員 私も、巨峰のイメージ、宮代町のイメージと紫がつながるので、「む」音の作品が良いと思う。

委員 私は、宮代町という表現が、句の中に入らない方が良いと思うので、「つ」音の作品「粒ごとに味のつまった巨峰の実」が良いと思う。

委員 私は、「む」音の作品で良いと思う。ただ、初代かるたの巨峰の句と比べると、すこしインパクトに欠けるようにも思う。初代かるたの絵札も、良くできた絵だったこともあり、印象に残っている。ただ、今回は「む」音の作品が良いのではないか。

事務局 巨峰の作品は、「む」音の作品で採用としてよろしいか。

全員 異議なし

●「き」 <仮採用「健康マッ歩」>

事務局 これまでの結果を踏まえると、「き」音の作品は、木造庁舎、健康マッ歩が残る。健康マッ歩については、前回、「ち」音で仮採用したが、「ち」音には、優先題材の図書館、ハナレンジャーの作品が含まれていることから再検討を提案させていただいた。

事務局 木造、という視点で考えると、既に東小を題材とした作品が「れ」音で採用されている。「木造」の重複を考えれば、「き」音は、健康マッ歩の作品、という考え方もできるかもしれない。

委員 健康マッ歩で良いのではないか。

全員 ※特に意見なし

事務局 では、健康マッ歩を仮採用とさせていただきます。

●「ち」 <仮採用「ハナレンジャー」>

委員 「ち」音については、仮採用だった健康マッ歩の作品が「き」音に変更になったので、ハナレンジャーの作品を仮採用として良いのではないか。

事務局 「ち」音は、ハナレンジャーで決定してよろしいか。

全員 異議なし

●「さ」 <仮採用「駅」>

事務局 「さ」音は、前回、駅を題材とした作品で仮採用決定していたが、駅自体は優先題材ではないため、優先題材の桜市、逆井遺跡の検討のため、再検討をお願いするもの。ちなみに、桜市の候補作品は、ほかに「ま」音にある。

委員 図書館の選択肢も、だいぶ狭まってきている。

委員 私は、駅の作品が良いと思う。

委員 そうすると、桜市の作品は、「さ」以外では「ま」しか選択肢がなくなる。

事務局 「ま」音の中で、桜市か、図書館か、という選択をすることになると思われる。

委員 「ま」音の桜市は、皆さんは作品としてどう評価しているか。

委員 「ま」音で桜市を選択すると、図書館の句がなくなってしまう。

委員 私は、今、候補になっている「ま」音の図書館の作品は、表現として少し課題があるように感じる。

事務局 「ま」で図書館の作品を見送る場合は、図書館の作品がなくなる。その場合、次の手として、先ほどハナレンジャーで仮採用した「ち」音に選択肢がある。

委員 図書館の作品は、「す」音にも候補があるようだが。「す」音は、須賀小の句も出ている。おさえなければいけない題材を先にクリアした方が良いと思う。

事務局 それでは、「す」音について、先にご検討いただきたい。

●「す」 <仮採用「須賀小」>

事務局 前回会議では、須賀小学校はどんぐりピアノに含まれる、という点について、確認した。その後、その結果を教育委員会内で確認したところ、他の3小学校は、学校名が句に詠みこまれている一方で、須賀小学校だけ、表現として句に出てこない点が、議論となった。どんぐりピアノは、小学校の道徳教材として町全体で扱われており、一般化しているため、可能であれば、須賀小学校についても、句の中に学校名が入った作品で再検討できないか、という話になった。そこで今回、皆さんに再度、ご意見を伺いたい。

事務局 須賀小の句については、「す」音に候補にできる作品があったため、資料に記載した。

委員 事務局の提案で問題ないと思う。須賀小の句については、この候補から選定すればよい。須賀小のシンボルといえば、やはり校庭の真ん中にあるかえでの木だろう。

委員 私は、「みんなを見守る」という表現が良いと思う。

委員 他の3小学校の句は、人の要素を詠んでいない。建物のことを詠んでいる。須賀小の候補だけ、人の要素を含んだ内容となっていて、他と違う内容になる。その点が少し気になる。

委員 図書館の句も、捨てがたいが。

委員 私は、須賀小の句、みんなを見守るという句で良いと思う。

事務局 それでは、「す」音については、須賀小の句、363番の作品を採用として良いか。

全員 異議なし

●「み」 <仮採用「町立図書館」>

事務局 続いて、図書館の句がまだ決まっていないので、ここで決定していただきたい。図書館の句

は、「ま」音に残っている。また、「ち」音で、既に決定しているハナレンジャーの句をもう一度再検討する、という方法も考えられる。

委員 「ま」音の761番の句を手直しして、何とかできないか。

事務局 761番の修正は、かなり大幅なものになると思われる。その修正が適切かどうか、疑問が出てくる。

委員 例えば、761番の「宮代町立」というところを、「宮代自慢の」と言い換えてはどうか。

事務局 宮代町の図書館は、埼玉県内では、町立としてはトップクラスの蔵書数、利用実績がある。ただし、この修正も、作者から見たときに、やや、やりすぎな印象に受け取られないか、心配なところ。ただ、皆さんの意見として、それで構わない、ということであれば、そのように進めるが。

委員 町が誇る図書館で、学びの意欲を掻き立てられる、という趣旨で考えて、「宮代自慢の」という修正で進める、という考え方はできないだろうか。

事務局 自慢の、という要素が、オリジナルに全くないものなので、その点が気になる点である。

委員 私は図書館で学ぶ、という言い回しが気になる。図書館は、知識を広げる場所。一方で、学ぶという行為は、学校でするもの、という印象がある。

事務局 知識を広げる、という表現を使った他の作品がある。点数は低かった作品だが、「学びの場 知識広げる 図書館で」という作品。

委員 この作品の方が、図書館の役割を端的に表現しており、句として相応しいと思う。

委員 「自慢の～」という修正案で進めるよりは、こちらを採用する方が望ましい。

事務局 作者の競合もないので、この作品を仮採用決定でよろしいか。

全員 異議なし

#### ●「さ」 <仮採用「駅」>

事務局 「さ」音について、駅の商品とするか、桜市を採用するか。

委員 私は駅が良いと思う。

委員 桜市のイベントも良いし、宮代町の桜は素晴らしいので、桜の要素を含んだ作品をどこかで採用したいという思いはあるが、なかなか難しい。

委員 句の中で、桜が2度使われているところは、読むときにも少し気になる。

委員 桜市の作品に、少し難があるとすれば、駅の商品を採用ということで良いか。

委員 私は、駅を採用したい。鉄道は、旧百間村と旧須賀村をつなぐシンボルという要素もある。

事務局 駅を推す声が強いようだが、駅の商品で決定してよろしいか。

全員 異議なし

#### ●「ん」 <仮採用「東武動物公園」>

事務局 候補作品には、東武動物公園のある町の風景を詠んだものと、東武動物公園そのものの機能を詠んだものがある。

委員 遊園地の要素の方が強く出て、動物園が薄いと、バランス的に問題があるだろう。

委員 408番の作品が良いと思うが、表現として「東武公」を「動物園」に置き換えた方が適切であり、そもそも「東武公」のままでは「ん」音の作品とすることはできない。

委員 私は、925番の「ゆめいっぱい」の句が良いと思う。

事務局 初代かるたの動物園の句が、「ゆめいっぱい 子どももいっぱい 動物園」なので、少し類似している。

事務局 「わくわくどきどき」という言い回しは、読みやすさの点では問題ないだろうか。

委員 特に問題ない。

委員 それでは、408番を推す意見が強いようなので、末尾の表現を「動物園」と修正して、採用としたいがよろしいか。

全員 異議なし

●「め」 <仮採用「新しい村」>

事務局 煉瓦橋台と新しい村の2つの句が候補となっている。

委員 煉瓦橋台は少しマニアック。新しい村の句を採用したい。

委員 煉瓦橋台も、貴重な文化遺産ではあるが、新しい村の句もあった方が良いと思う。

委員 新しい村は、直売所だけでなく、あのエリア全体を総称しているもの。山崎山、ホツケ田んぼなども含まれている。

委員 あえて新しい村を取り上げなくても、既にほかの句で、実質的に新しい村の要素は取り上げられてはいる。

事務局 新しい村の整備コンセプトを考慮すると、この候補作品は内容的には足りない部分もある。ただ、かるたが完成した際、新しいかるたに新しい村の句が入っていないと、一般的には、どうしてなのか、という印象に受け取られるかもしれない。

事務局 我々事務局が、今回の郷土かるたのリニューアルを対外的に説明する際にも、あくまで例示としてだが、初代かるたには新しい村が含まれていないため、今回のリニューアルになった、という表現を良く使った。

委員 新しい村の句で良いのではないか。

委員 それでは、「め」音は、新しい村の句で決定としたい。

●「つ」 <仮採用「農のあるまちづくり」>

委員 個人的には、ホタルの句を復活できないか、と考えている。「つ」音か「め」音で、可能性があると思うが。

委員 農のあるまちづくりの句は、少し読みづらい印象がある。内容的にも、これで農のあるまちづくりと考えるのは、やや難しいような気がする。また、ホタルの句を採用する方向で考えたとしても、今度はホツケが他の音と競合してしまう。

委員 そこを、ホタルを主題材として考えることはできないか。ホツケを他の表現に言い換えるなどで対応するとか。

事務局 ホツケについては、前回、議論の末に、ホツケと井沢弥惣兵衛を関連付けた作品とすることで決定している。ここを覆すことは、避けるべきだと思う。

委員 現在の候補作品の「のうさくぶつ」という表現を、何とかできないものか。たとえば、「新しい村」に置き換えるとか。

事務局 冒頭の「つくったひとの」を「作り手の」に変え、さらに末尾の「のうさくぶつ」を「新しい村」に変えるということになる。原作とかなり変わってしまう。

事務局 「新しい村」ではなく、「農のまち」という表現ではどうだろうか。

委員 新しい村の趣旨とは一致した表現になるので、良いと思う。

委員 農のあるまちづくりは、宮代町のまちづくりの一番重要な考え方。これで良いのではないか。

事務局 原作をできるだけ活かして、「作り手の 笑顔があふれる 農のまち」という内容で採用としたい。

委員 真ん中の「笑顔があふれる」は、単に「笑顔あふれる」とした方が読みやすい。

事務局 そこは段階を追って作者に確認し、修正していきたい。一方、「め」音については、新しい村の句が残る形になるが、それでよろしいか。

全員 異議なし

#### ●「ほ」 <仮採用「遺跡」>

事務局 さきほど、末尾の「道仏遺跡」の表現についてペンディングとしていたが、この部分はどうのように決定したら良いか。

委員 「縄文遺跡」の他の言い方として、「古代遺跡」という表現ではどうか。

委員 あるいは、「縄文人」という表現はどうだろうか。

委員 町内の遺跡全体にかかる言い回しとしては、「縄文遺跡」が無難、といったところ。皆さんは、「古代」という表現はどのような印象を持つだろうか。

委員 「古代」よりは、「縄文」という表現の方が、インパクトがあると思う。子供たちにとっても、「縄文」という言い方が適切なのではないか。

委員 「古代」という表現は、「縄文」よりも新しい、というイメージがあるのでは。古墳時代から、奈良、平安時代あたりまでが古代、という認識がより一般的だと思う。

委員 表現としては、「縄文人」という選択肢は好ましくないと思う。意味合いとしても、通じなくなる。

委員 縄文遺跡で良いのではないか。

委員 それでは、「道仏遺跡」を「縄文遺跡」と修正する方向で、決定したい。

全員 異議なし

委員 では、以上ですべての音の句が決定した。

事務局 それではここで、すべての採用作品を、宮子連の委員さんに、実際に読み上げていただく。

～すべての作品を読み上げて音の響きを最終確認

●「か」音の作品 「観音像 いくつもの時と 世代越え」を修正  
→「観音像 いくつもの時 世代越え」



- 「せ」音の作品 「せんげんじんじゃ じょうぶにそだてと ねがいこめ」を修正  
→「せんげんさま じょうぶにそだてと ねがいこめ」
- 「よ」音の作品 「夜にわく わっしょいかけ声 夏祭」を修正  
→「夜にわく わっしょいかけ声 町民まつり」
- 「わ」音の作品 「和戸教会 埼玉初の キリスト教会」を修正  
→「和戸にある 埼玉初の キリスト教会」

## ②新かるた名称の決定方法について

### 決定事項

- 3重複以上の49作品を対象とし、委員全員による3点満点で採点し、次回会議で名称を決定することとした。

## (4) その他

- 次回会議（9月20日）の検討事項について確認
  - ①読み句の最終決定
  - ②かるた名称の最終決定
  - ③役札の検討
  - ④絵札原画の募集要項について